

霧島連山の絶景はよそにない自慢の風景



こばやし霧島連山絶景ウオーク

実行運営委員長

おかもと なおいちろう

岡本直一郎 さん (76)

市内で2日間にわたって開催されるウォーキングイベント、「こばやし霧島連山絶景ウオーク (みやざきツアーデーマーチ)」の立ち上げ時から運営委員長を務めている。同大会は、2013年に初めて開催され、コロナ禍による3回の中止を含み、今年で13回目。

「知恵と汗を出すことで人は感動してくれる。それが本当の『おもてなし』だと思います」。

そう話すのは、こばやし霧島連山絶景ウオーク運営委員長の岡本直一郎さん。

岡本さんが大会の着想を得たのは、20年近く前のこと。鹿児島県・指宿市のウォーキング大会に参加し、その活気と温かさに感銘を受けた。「小林でもこんな大会をやりたい」。その一心で、ゼロからコースを設定し、警察や行政、地域住民を説得して回った。まさに「こばやし霧島連山絶景ウオーク」の生みの親だ。

「最初は『ツアーデーマーチ? 何ねそれは』と言われたこともあった」と笑う岡本さん。しかし、その情熱は徐々に周囲に広がり、今ではコース沿いの地区住民らが応援に駆けつけ、特産品を振る舞う風景が当たり前になった。「小林のおも

てなしはすばらしい」と、全国からリピーターが訪れるようになったのは、岡本さんが撒いた種が、地域で大きく花開いた証拠だ。

「参加者はただ歩くだけでなく、地元の人との『触れ合い』を楽しみに来ている。これこそが大会の最大の魅力であり、また来たいと思ってもらえる理由です」と岡本さんは胸を張る。再来年には、「みやざきツアーデーマーチ」として30回記念を迎える同大会。今後の展望を尋ねると、岡本さんは笑顔で答えた。「若い人からお年寄りまで、誰からも親しまれる大会であり続けたい」。

一人の情熱から始まった大会は、今や多くの市民が関わる「市の一大イベント」として定着している。今年も、霧島連山の麓で、岡本さんは誰よりも大きな声で「おかえりなさい」と参加者を迎えるはずだ。

ウォーキングを日課とし、多くの大会を知る岡本さんだから分かる「喜ばれるツボ」。他大会の良さを取り入れ、リピーターの絶えない大会を作る

温かいふるまいと絶景が魅力の「こばやし霧島連山絶景ウオーク」。今年は2月21日(土曜)、22日(日曜)に開催。当日参加もできます



▼詳細は大会ホームページで確認できます



林
小人
こばやしびと
Vol.133